

当院の平成 26 年度 D P C 指標と今後の課題について

佐藤 慎介
Shinsuke Sato

NHO 旭川医療センター 診療情報管理室

1. 全 体

厚労省の平成 26 年度 D P C (Diagnosis Procedure Combination : 診断群分類) 公開データを基に当院の D P C 指標を作成し、疾病の傾向、地域でのポジション等の分析を行った。

当院の診断群の傾向は、呼吸器系、神経系、消化器系の診断群が他の診断群に比べると突出して件数が多い。呼吸器系、神経系は、効率性指数、複雑性指数共に高いが、消化器系は効率性指数、複雑性指数共に低い。(図 1 参照)

全体として、近隣他施設と比較すると、効率性指数は低く、複雑性指数は高い傾向であった。当院の特徴として、同じ D P C の患者の平均在院日数が他施設より長く、診療効率が低めとなっている。しかし、より重症度が高い入院期間が長く設定されている D P C の患者を多く受け入れている。(図 2 参照)

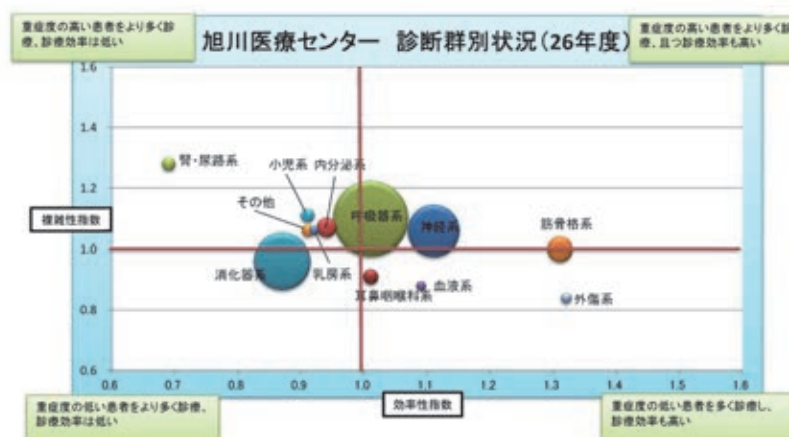


図 1

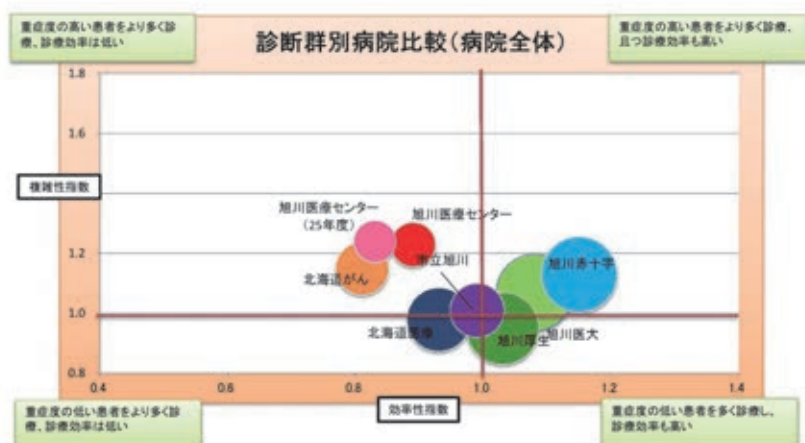


図 2

佐藤 慎介 NHO 旭川医療センター 診療情報管理室
〒 070-8644 北海道旭川市花咲町 7 丁目 4048 番地
Phone:0166-51-3161,Fax:0166-53-9184 E mail: shinsuke@asahikawa.hosp.go.jp

2. 神経系

神経系は、効率性指数が高く、複雑性指数は平均的な数値となっている。(図3参照) 月平均患者数は59.3名で道内第14位、2次医療圏内シェアは20.0%であった。

代表的な疾患として、パーキンソン病(手術なし)は年間265件で全国第1位、平均在院日数は16.9日で道内で7番目に短い。

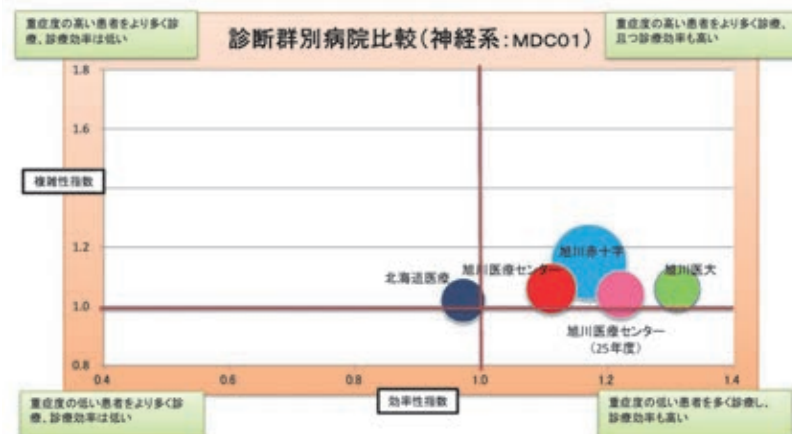


図 3

3. 呼吸器系

呼吸器系は、効率性指数は25年度が低い数値であったが、26年度は平均的な数値となった。複雑性指数は高い傾向である。(図4参照) 月平均患者数は125.5名で道内第4位、2次医療圏内シェアは27.4%であった。代表的な疾患として、肺の悪性腫瘍(手術あり)は年間80件で道内第11位、同じく(手術なし)は844件で道内第2位、慢性閉塞性肺疾患(COPD)は92件で全国第6位、道内第1位であった。

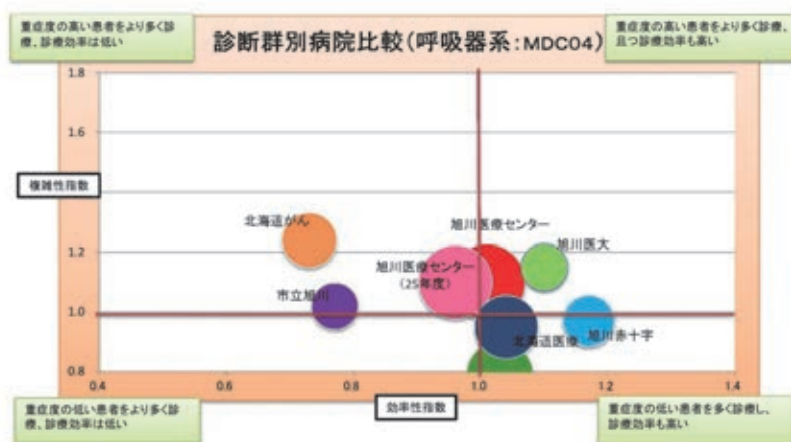


図 4

4. 消化器系

消化器系は、効率性指数、複雑性指数共に低い傾向であった。(図5参照)

月平均患者数は、71.0名で、2次医療圏内シェアは6.2%であった。代表的な疾患として、小腸大腸の良性腫瘍(ポリペクあり)は年間102件であった。

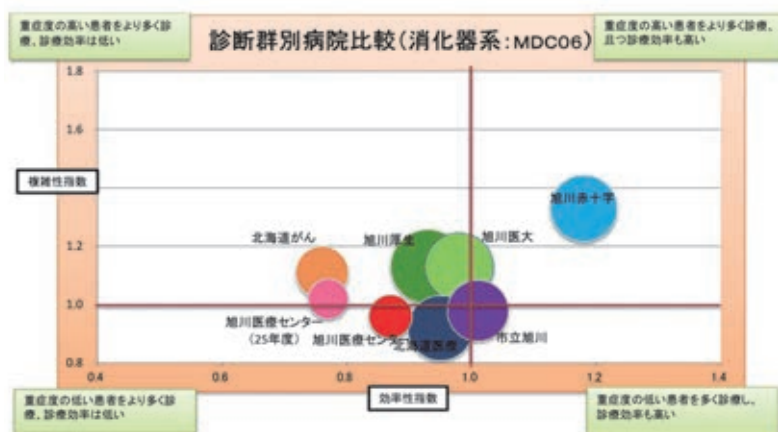


図 5

5. 筋骨格系

筋骨格系は、効率性指数が高く、複雑性指数は平均的な傾向であった。(図6参照) 月平均患者数は、14.1名で、2次医療圏内シェアは7.2%であった。代表的な疾患の関節リウマチは年間67件で道内第5位であった。

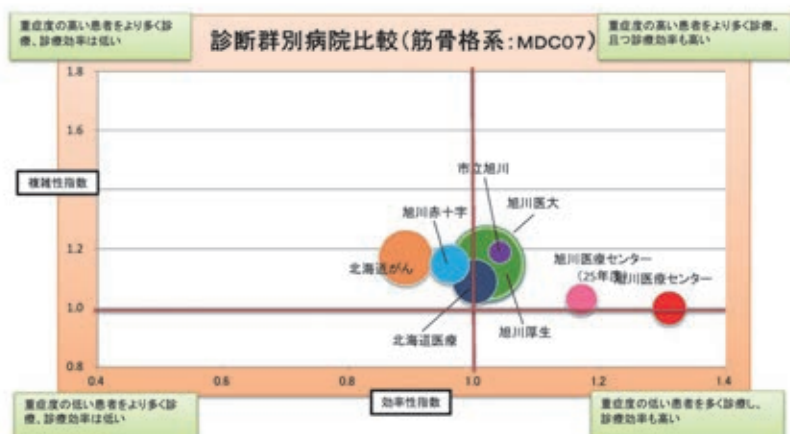


図 6

6. 内分泌系

内分泌系は、効率性指数、複雑性指数共に平均的な数値であった。(図7参照) 月平均患者数は、8.8名で、2次医療圏内シェアは6.0%であった。

代表的な疾患の2型糖尿病は年間54件であった。

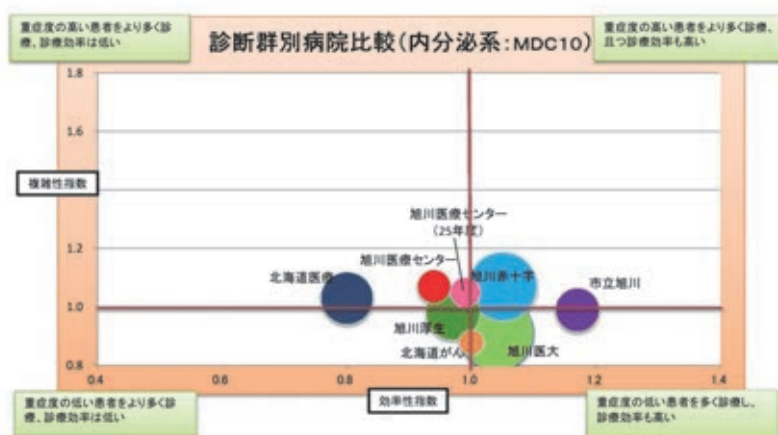


図 7

7. 当院の今後の取り組み課題について

当院は、全体的に効率性指数は低い複雑性指数は非常に高い。今後の取り組みとして、重症度の高い患者を引き続き積極的に受け入れ、近隣随一の高さの複雑性指数を維持していき、同時に当院のウィークポイントである、効率性指数の改善を行う必要がある。そのためには、クリティカルパスの利用拡充、地域連携の強化による新患確保、積極的な救急患者の受け入れ及び適時退院の促進等による、平均在院日数の短縮がさらに必要となってくる。その結果、病床利用率の引き上げに繋がると考える。

当院の代表的な疾患については、患者数で全国、全道で上位に入っているが、消化器系、肺の悪性腫瘍手術ありについては、まだ伸びしろがあるように考える。

参考文献

『厚生労働省DPC評価分科会資料「平成26年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告」』